

第54回中学生作文コンクール

都道府県別賞一等

保険の大切さを知って

静岡県 静岡県立清水南高等学校中等部 一学年

山本 珠希

中学校生活にも慣れてきたある日、私は思いがけず足をケガしてしまった。ひねった足が内出血し、痛みがなかなかひかないため母と病院へ行くと、小指の付け根を骨折していることが分かった。突然の出来事に私も母も驚きを隠せなかったが、家に帰ると母は何かを調べ始めていた。私が、

「何をしているの。」

と聞くと母は、

「あなたが入っている保険を調べているんだよ。」

と言った。そのとき私は、親が私のために傷害保険に加入してくれていたことを初めて知った。

私はそれまで保険というものがどのような仕組みで何のためにあるのかを全く知らなかったのだ。しかし、自分が骨折をしてから、私が加入している保険のことについて色々話を聞くようになった。すると、段々保険に興味がわき、どのような種類があるのか調べてみた。すると、保険には傷害保険の他にも医療保険や介護保険、死亡保険、個人年金保険など様々な種類があることが分かった。

私は、自分の両親がどんな保険に入っているのだろうかと気になり、父に

「お父さんは何か保険に入っているの。」

と聞いてみると、父は、

「死亡保険や医療保険、ガン保険にも入っているし、家族全員で傷害保険に加入しているよ。」

と説明してくれた。母にも同じ質問をしてみると、

「私は、医療保険とガン保険、それに個人年金保険に入っているよ。」

と言った。父は死亡保険なのに、なぜ母は個人年金保険なのだろうと疑問に思い、もっと詳しく話を聞いてみた。

母は就職して間もない頃に祖父のすすめで個人年金保険に入ったそうだが、年を取るにつれて個人年金保険のありがたみを感じると話してくれた。

両親の話を聞いて、父が死亡保険に入っているのは、自分にもしものことがあったとき、残された私と母が困らないようにという思いがあるということ、また、母は老後に個人年金を受け取ることができる安心感を得ていることが分かった。私は、保険というものがとても大切なものだと感じた。

第54回中学生作文コンクール

数カ月前に私の祖父が肝臓ガンで亡くなった。ガンになるまでは一日に二回も散歩に出掛けるほど元気だったが、みるみるうちに弱くなって入院を繰り返すようになった。母の話では、祖父は保険に何一つ加入していなかったため、ガンになってから祖父はそのことをずっと後悔していたそうだ。祖父は大きな病気になって初めて保険の大切さに気づいたが、私は若い頃に知ることができて本当に良かったと思う。

一口に保険と言っても、目的に応じて様々な種類がある。自分自身が老後にお金を受け取る個人年金保険とは違って、死亡保険は自分にもしものことがあったときに残された家族のために入るものだ。自分がもらうことはできないが、残された家族が暮らしに困らないように、迷惑をかけないようにするために家族へ与えられる。家族のためを思っって入る死亡保険には、家族への愛情や責任のようなものがあると感じた。

しかし、やみくもに保険に入れば良いというわけでもないと思う。自分の収入や家族構成、将来の人生設計などをよく考えた上で、その人その人の状況に合った保険を選ぶことが大切なのではないかと思う。